

研究結果報告書

満州国における金融政策：－満州中央銀行を中心に－

所属： 中国東北師範大学 日本研究所

役職： 副教授

氏名： 付 麗穎

本研究は、満州中央銀行の政策を中心に、日本の植民地金融政策の一部として「満州国」における金融政策の背景、実行策の内実を分析し、それらが中国東北経済に与えた影響を考察したものである。具体的研究内容と成果は以下の通りである。

1. 「満州国」建国前の中国東北地方における金融システム：

19世紀末から20世紀初頭にかけての中国東北地方の通貨システムは極めて混乱していた。旧式の錢荘、票号と新式の銀行ばかりでなく、中国の金融機関と外国資本の金融機関が並存し、それらが発行した通貨は何十種類にもものぼった。紙幣と硬貨が並存し、市場には金本位通貨と銀本位通貨或いは銅本位通貨がそれぞれ流通していた。本研究は、「満州国」建国前の中国東北地方における通貨の発行機関、通貨の種類、各種通貨の流通量、為替レートの変動と云った四つの視点から考察し、研究成果としては、論文『「満洲国」建国前の中国東北地方における通貨システム』を発表した。

2. 満州中央銀行における金融政策：

満州中央銀行は東三省官銀号、吉林永衡官銀錢号、黒竜江省官銀号、辺業銀行の資産負債を継承する形で設立された。本研究は、満州中央銀行における幣制統一、金融独占、強制貯蓄、国債乱発と云った金融政策の軌跡を考察し、論文『「満州国」における金融と貿易』を発表した。

3. 太平洋戦争と「満州国」における金融統制の強化：

太平洋戦争開戦時における「満州国」の役割は、日本の戦争経済が必要とする戦略的重要物資の供給基地という位置付けであった。日本の戦時緊急需要を満たすために、「満州国」政府は国内資金の吸い上げを加速するための一連の政策を実施した。厳格な金融統制は、社会資金を戦争産業に投入することとなり、その結果、民需産業の資金不足をもたらし、民需産業の衰退に繋がっていった。そして「満州国」経済は、激しいインフレーションに陥ったのである。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

付麗穎: 『「満洲国」建国前の中国東北地方における通貨システム』、『外国問題研究』、2013年第2期。
付麗穎: 『太平洋戦争勃発と「満洲国」における金融統制の強化』、『外国問題研究』、2014年第2期。
付麗穎: 『「満洲国」における金融と貿易』、『偽満歴史文化と現代中日関係・上巻』、中国・商務印書館、2013年。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)